

新潟県下越・中越地区における 2チームじゃんけんの手の型の分布

The Distribution of the Hand-shape in JANKEN to Divide into Two Groups

佐々木 香 織*

要旨

本稿の目的は2013、2014年度に本学の日本語学受講生の協力の下実施した、新潟県内のじゃんけんのかけ声についての調査結果をもとに、2チーム分けじゃんけんの際の手の型について、下越、中越地区の中学校区ごとの分布を記述することである。同地区の2チーム分けじゃんけんの手の型について見ると、「ぐー」と「ぱー」による2チーム分けは、胎内市、聖籠町、新潟市、長岡市、柏崎市の中心部で多く、「ぐー」と「ちょき」は村上市、新発田市、三条市、見附市、出雲崎町で主に使われている。「ちょき」と「ぱー」や「いち」と「に」は村上市、新潟市、長岡市の周辺部で散見できる。「手の甲」と「手のひら」は県央部と長岡市中心部を取り巻くように分布が広がっている。ここでは、調査結果を言語地図にまとめることを目的とし、考察は別稿に譲る。

キーワード：方言 2チーム分けじゃんけん 手の型 言語地図

0. はじめに

本稿では、アクティブ・ラーニングの実践として、2013、2014年度の新潟国際情報大学3年次科目、「日本語学」の受講学生に課した「新潟県内の中学生のじゃんけんのかけ声についてのアンケート調査」の結果をもとに、下越、中越地区の中学生の間で行われる2チーム分けじゃんけんの際に、どのような手の型が、どのように分布しているのかを地図上に示し、明らかにする。本調査は、受講学生がグループ別に担当地区の調査協力校へ調査の可否を問い合わせた上で、承諾を得た学校へ郵送でアンケート用紙を送り、回答後、返送してもらったデータを担当グループごとに集計してレポートを提出するという一連の作業自体を学生の課題とした。この調査から受講学生が手紙の書き方や電話での対応の仕方などを実際に体験し、自分たちで集めたデータをレポートにまとめることで、調査手法を学ぶことを目指して行った。その際、アンケート用紙の送料は受講学生にご負担いただき、付録に示す通り、両年度あわせて150校、1万人以上の児童生徒の皆様から回答を得ることができた。受講学生及び調査協力校の皆様にご改めて感謝申し上げます。

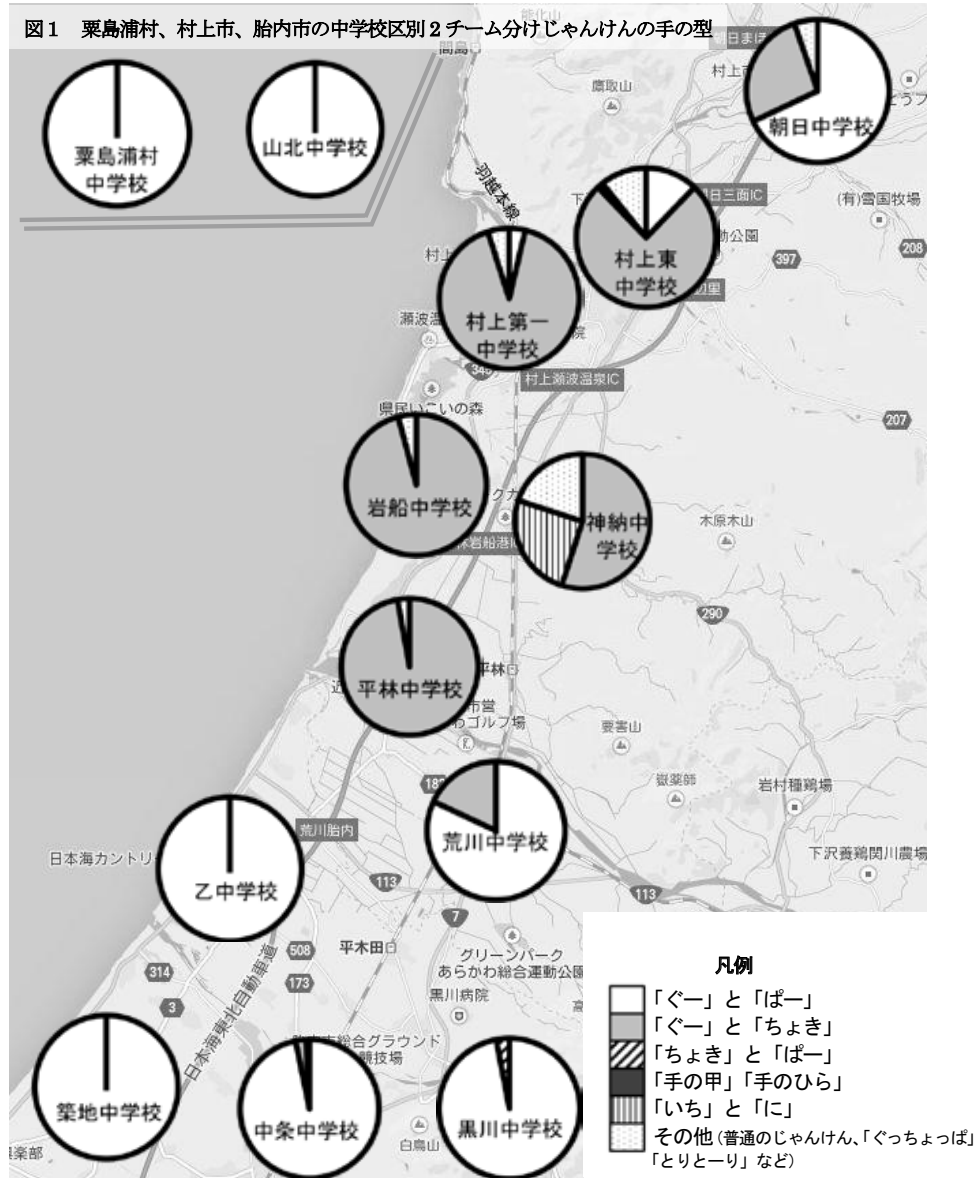
2チーム分けじゃんけんのかけ声は、新潟市周辺だけでも相当なバリエーションがあることが、佐々木(2012)でも確認されており、佐々木(2014)では、下越、佐渡地区を中心にかけ声を学校別に円グラフにまとめ、地図上にその分布を示した。これらのかけ声からわかる2チーム分け

* Sasaki, Kaori [非常勤講師]

の手の型は、主に5パターンある。もっとも広く使われているのは「ぐー」と「ばー」を使うもので、次いで「ぐー」と「ちょき」を使うもの、ごく限られた学校で見られる「ちょき」と「ばー」を使うもの、県央部や佐渡の一部で見られる「手のひら」と「手の甲」を使ったもの、さらに少数ではあるが、指で「1」か「2」を示し、「いちとーに」または「いーちかに」というかけ声で2チーム分けするものである。この他にも「ぐっちょっば」や「とりとーり」など、かけ声からは手の型がわからないものや、「普通のじゃんけんの勝ち負けで分ける」、「1、2、1、2と番号を振って分ける」などの回答もあった。「ぐっちょっば」というかけ声については、県内各地で散発的に見られるが「3チームに分けるとき使う」という記述もあったが、記述がない場合も多く、どのような手の型を使うか判然としなかった。これらの手の型が不明なもの、普通のじゃんけんで分けるものなどは、ここでは「その他」に分類し、本稿ではこれら6分類を学校ごとに円グラフにまとめ、地域ごとに地図上に示した（注1）。全体の手の型の分布を把握することを目的としたため、グラフの大きさは回答者数（注2）に関わらず地図ごとに同じにした。

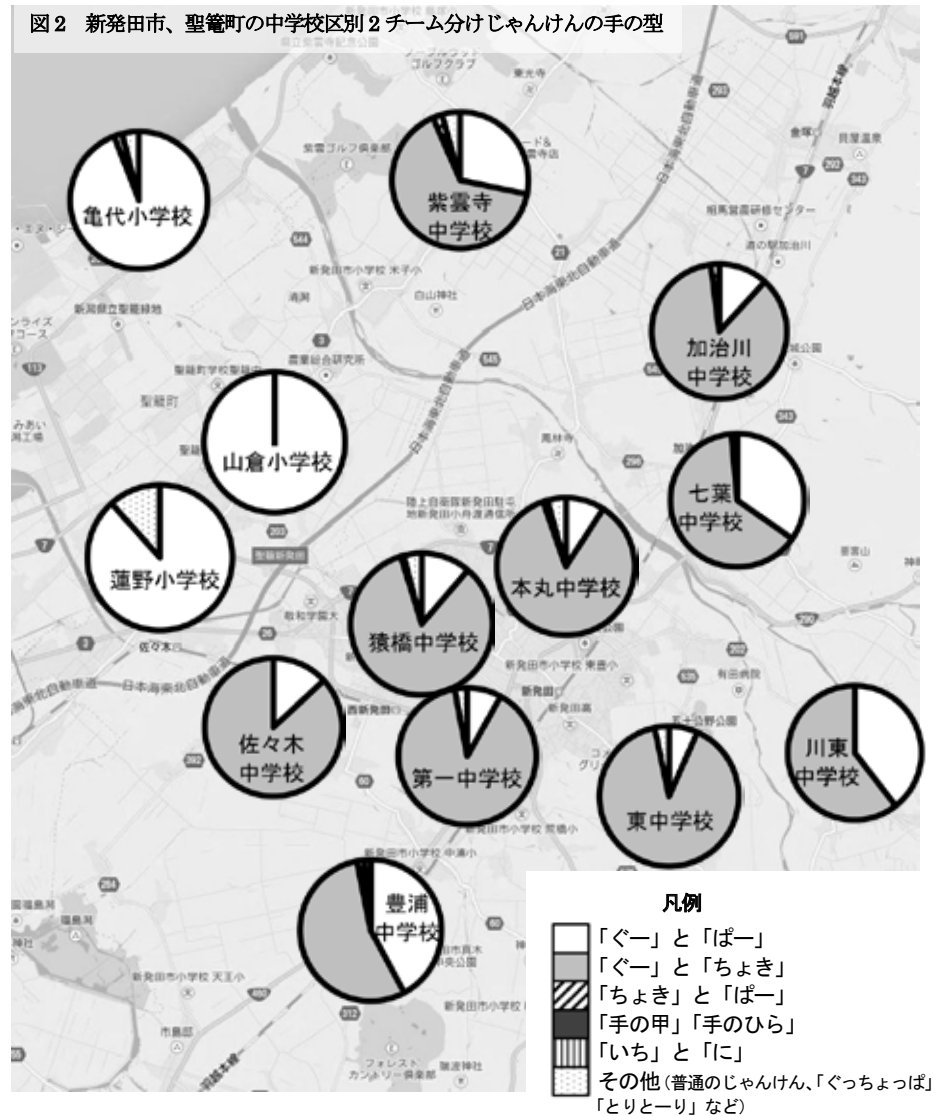
1. 粟島浦村、村上市、胎内市の2チーム分けじゃんけんの手の型

図1の通り、村上市中心部では「ぐー」と「ちょき」による2チーム分けが多くみられる。神納中学校は「いちとーに」というかけ声で、指で「1」か「2」を示す。また荒川中学校では「ぐー」と「ぱー」だが、多数を占めるかけ声は「くーろーべ」である。村上市中心部を挟むように、南隣の胎内市と村上市北部の山北中学校、粟島浦中学校では「ぐー」と「ぱー」の2チーム分けが行われている。胎内市では「ぐっとっぱ」類のかけ声が大半を占め、山北中学校とは「ぐっぱーぐっぱーどん」または「ぐっかっぱ」が多い。



2. 新発田市、聖籠町の2チーム分けじゃんけんの手の型

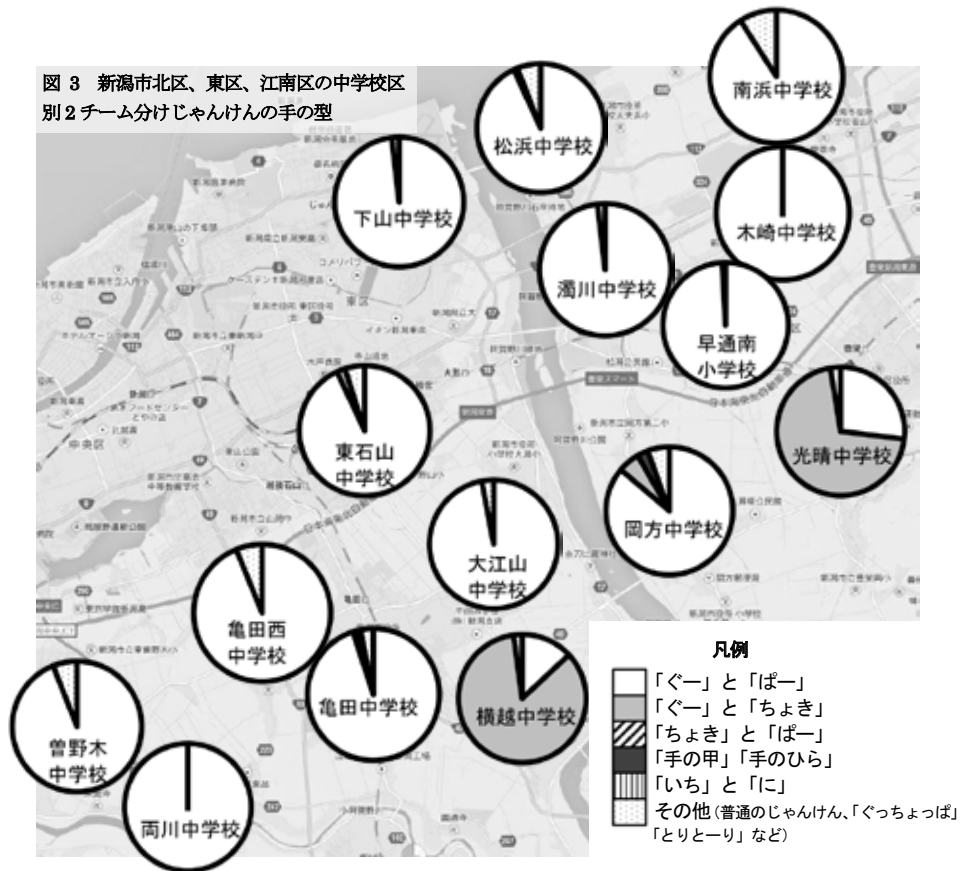
図2の通り、新発田市では「ぐとっち」類のかけ声で、「ぐー」と「ちょき」で分けるところが多いのに対し、西側に隣接する聖籠町の3小学校（聖籠中学校区）はいずれも「ぐとっば」類のかけ声で、「ぐー」と「ぱー」で分けるところが多い。



3. 新潟市北区、江南区、東区の2チーム分けじゃんけんの手の型

図3から、新潟市東北部はほとんどの校区で「ぐー」と「ぱー」による2チーム分けが行われていることがわかる。かけ声は中央区でも広く使われている「ぐーろぐーろぐーろっば」類が多くみられる。新発田市に近い光晴中学校区では、主に「いすとーいすとーはさみ」というかけ声で「ぐー」と「ちょき」が使われている。また、秋葉区や阿賀野市に接する横越中学校区でも「ぐー」と「ちょき」の2チーム分けが多い。(かけ声は「ぐーちよぐちよぐちよちよ」)

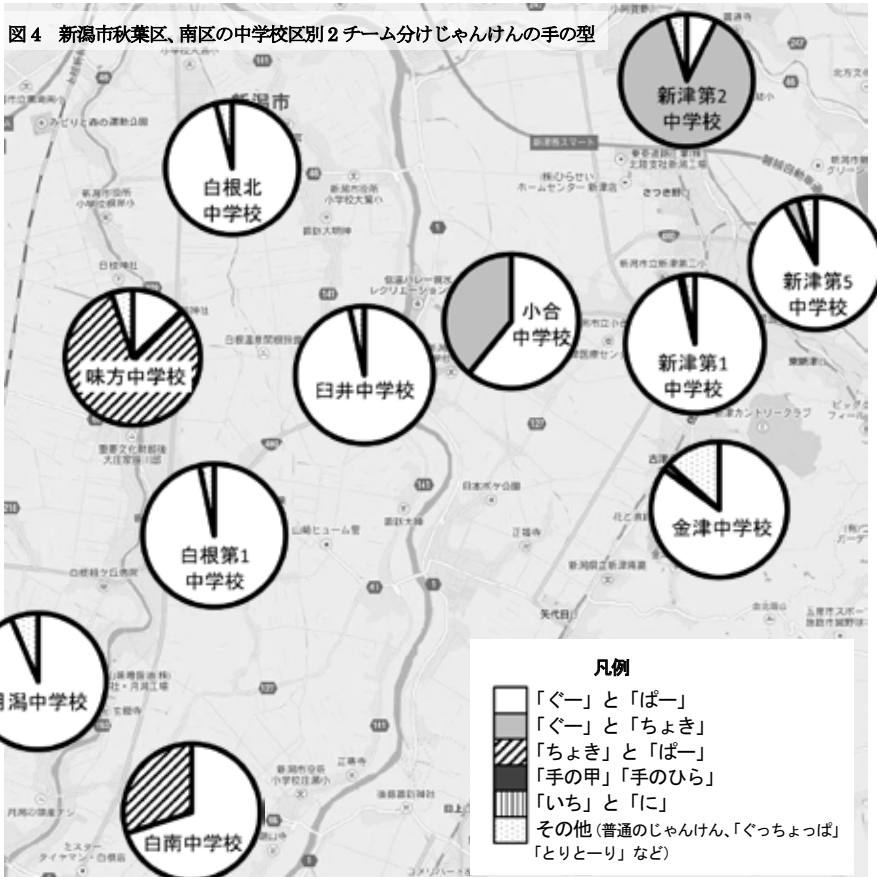
図3 新潟市北区、東区、江南区の中学校区別2チーム分けじゃんけんの手の型



4. 新潟市秋葉区、南区の2チーム分けじゃんけんの手の型

秋葉区は新津第二中学校で「ぐー」と「ちょき」が多数を占める他、小合中学校で回答者の3分の1ほどが「ぐー」と「ちょき」で分ける「ぐっちーまかち」というかけ声を使っている。これは新津第1、第5中学校区で使われる「ぐっばまっかーだ」(注3)という「ぐー」と「ぱー」の2チーム分けから出たものと考えられる。

南区は味方中学校区と白南中学校区では、県内では珍しい「ちょき」と「ぱー」による2チーム分けが行われている。かけ声は前者が「ちょーぱちょーぱちょーぱーや」類で、後者が「いーはーやす」である。白南中学校の回答に、「ちょき」と「ぱー」で分けるとの記述はあったが、なぜ「いーはーやす」かは不明である。



5. 新潟市西区、西蒲区の2チーム分けじゃんけんの手の型

図5、図6から、新潟市西部も多くの学校区で「ぐー」と「ぱー」による2チーム分けじゃんけんが行われていることがわかるが、かけ声は「ぐーはーぐーはーぐっとは」などで、新潟市東北部とは異なっている。また、西蒲区の西川中学校、巻西中学校では「ぐー」と「ちょき」による2チーム分けが多く行われており、岩室中学校では少数ながら、「手の甲」と「手のひら」を使うという回答もみられた。

6. 阿賀野市、五泉市、阿賀町の2チーム分けじゃんけんの手の型

図7、8の通り、阿賀野市、五泉市、阿賀町では、ほとんどの学校区で「ぐー」と「ぱー」を使う2チーム分けじゃんけんが行われている。ただし、五泉市の川東中学校、山王中学校だけは「ぐー」と「ちょき」が多く、前者が「ぐーっとぐっどぐっどち」、後者が「ぐーちーだ」類のかけ声が使われている。

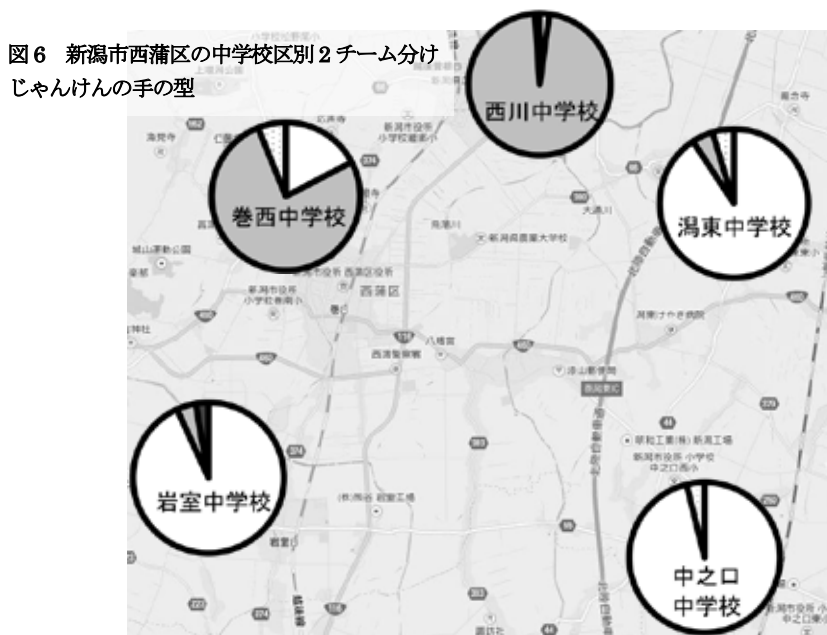
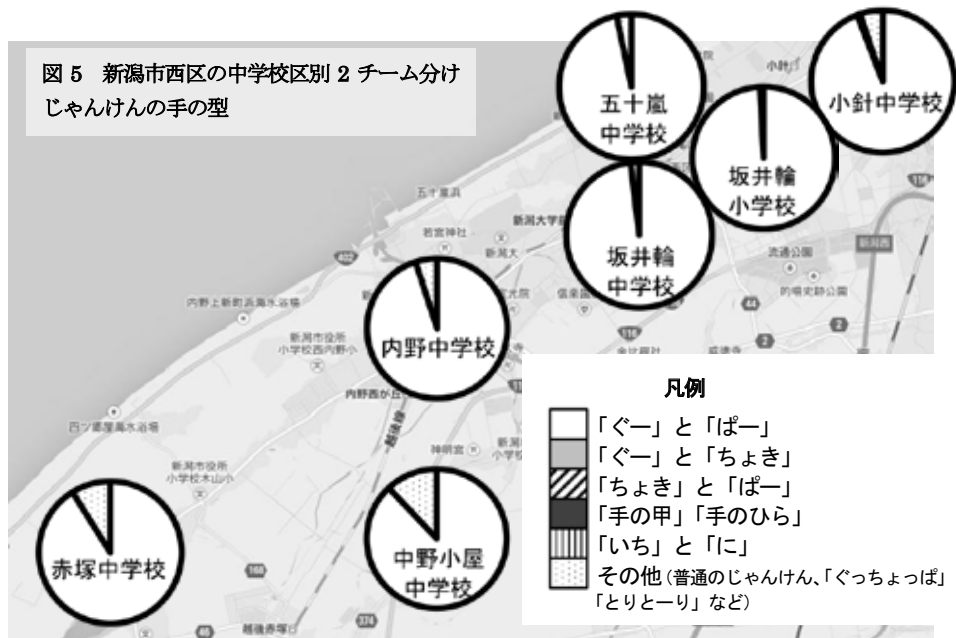


図7 阿賀野市、五泉市の中学校区別2チーム分けじゃんけんの手の型

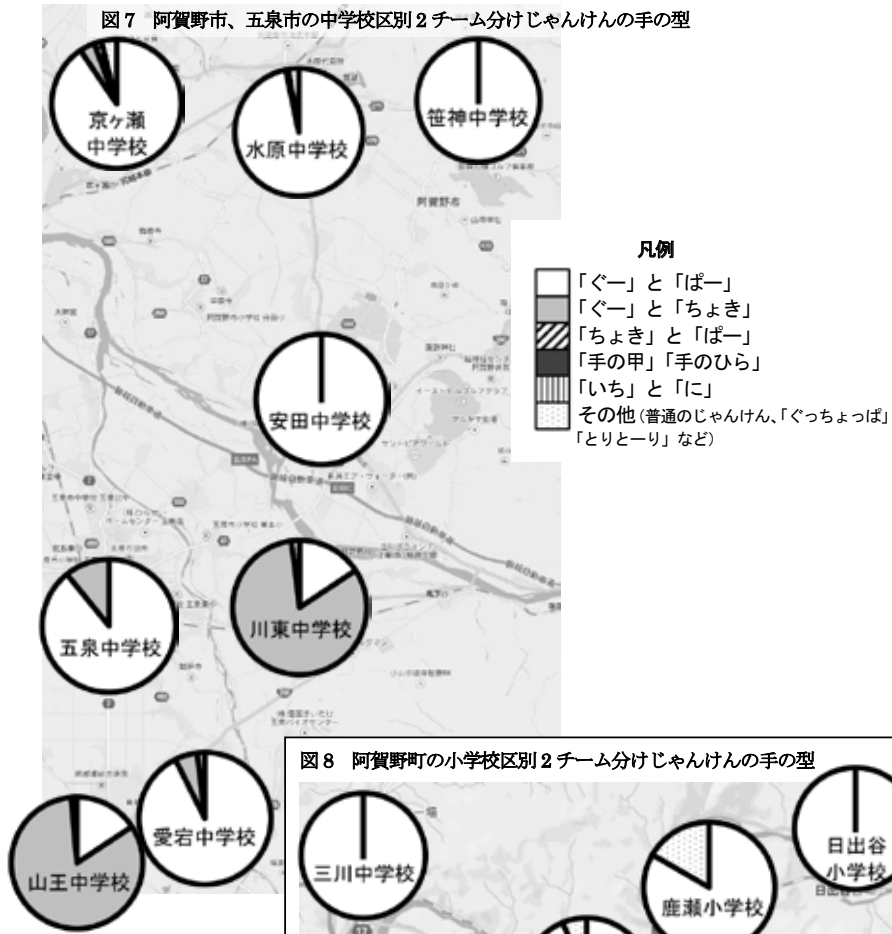
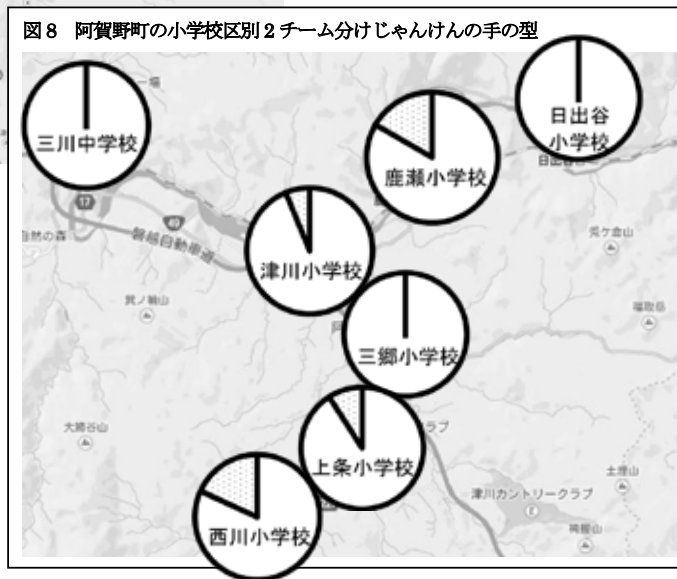


図8 阿賀野町の小学校区別2チーム分けじゃんけんの手の型



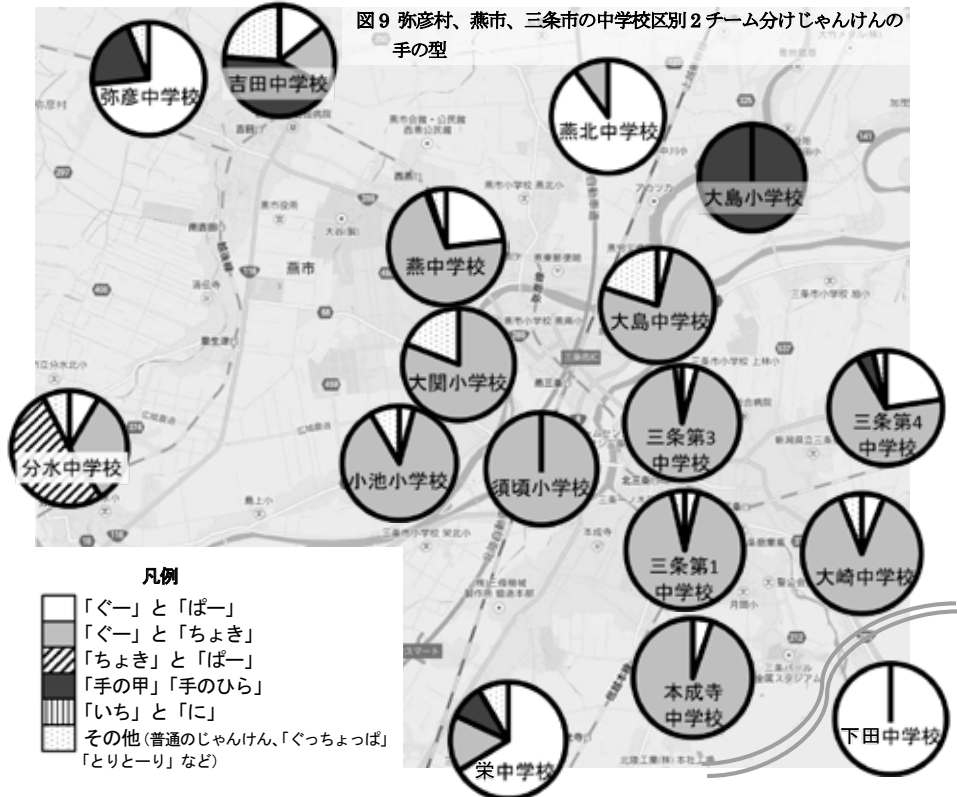
7. 弥彦村、燕市、三条市の2チーム分けじゃんけんの手の型

燕市については佐々木（2013）で学区ごとに特徴的な2チーム分けじゃんけんが行われていることが明らかになっているが、図9の通り、吉田中学校で「手の甲」と「手のひら」を使う、「うらうらうらうらおもて」などのかけ声が使われ、隣接する分水中学校では、「ちょーぱ」という「ちょき」と「ぱー」の2チーム分けが回答の約半数を占め、燕中学校や小池中学校区（大関、小池の2小学校）では「ぐー」と「ちょき」、燕北中学校では「ぐー」と「ぱー」がそれぞれ多数を占めるなど、市内の5つの中学校区で様々なかけ声と手の型による2チーム分けじゃんけんが行われていることが確認できる。

燕市吉田中学校区に隣接する弥彦中学校では、新潟市西蒲区の岩室中学校区と同様、「手の甲」と「手のひら」を使うという回答もみられたが、約4分の3は「ぐー」と「ぱー」での2チーム分けである。

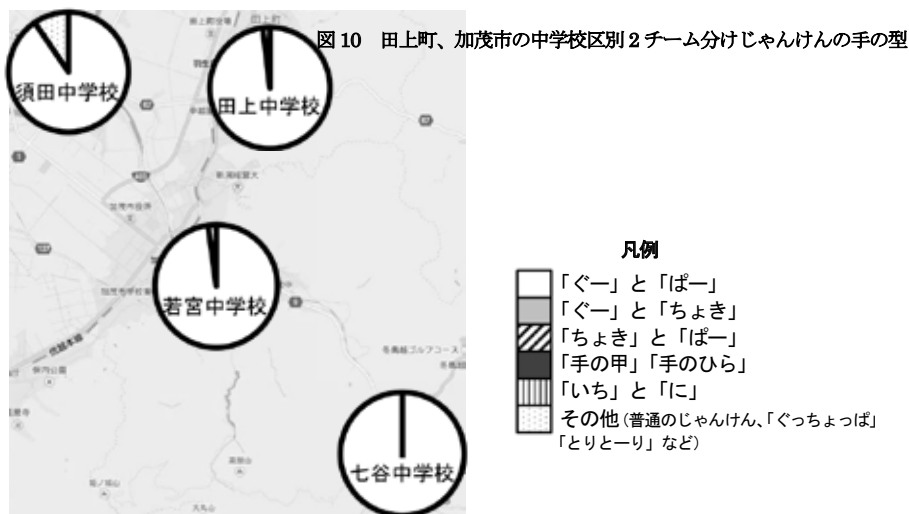
三条市は2005年に合併した栄中学校と下田中学校でのみ「ぐー」と「ぱー」を使うものが多数派である。

栄中学校は少数だが、「ぐー」と「ちょき」、「手の甲」と「手のひら」で分けるものも見られるが、下田中学校は、実際の位置が図9で示してある所よりもさらに右下にあり、どの学校からも遠く離れているため他の中学校からの影響が少ないことが考えられる。また大島小学校では全員が「手の甲」と「手のひら」による2チーム分けじゃんけんで、「うらうらおもて」類のかけ声を使うと回答しているが、この小学校の進学先の大島中学校をはじめ、他の三条市の学校では、かけ声は様々だが、手の型はほとんどが「ぐー」と「ちょき」である。



8. 田上町、加茂市の2チーム分けじゃんけんの手の型

田上中学校、加茂市の調査校ともに、手の型はほとんどが「ぐー」と「ぱー」だが、かけ声は田上中学校が「ぐーぱーぐーぱーぎっちょんえす」、加茂市須田中学校では主に「ぐーっぱ」類、若宮中学校、七谷中学校では「ぐーとっぱ」類である。(図10)

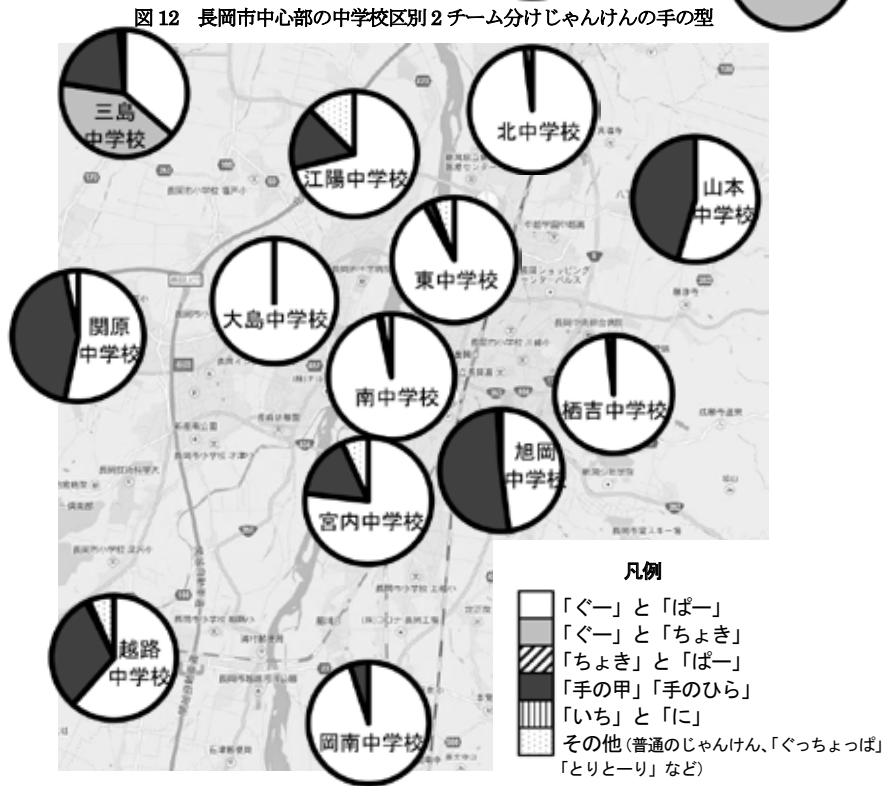
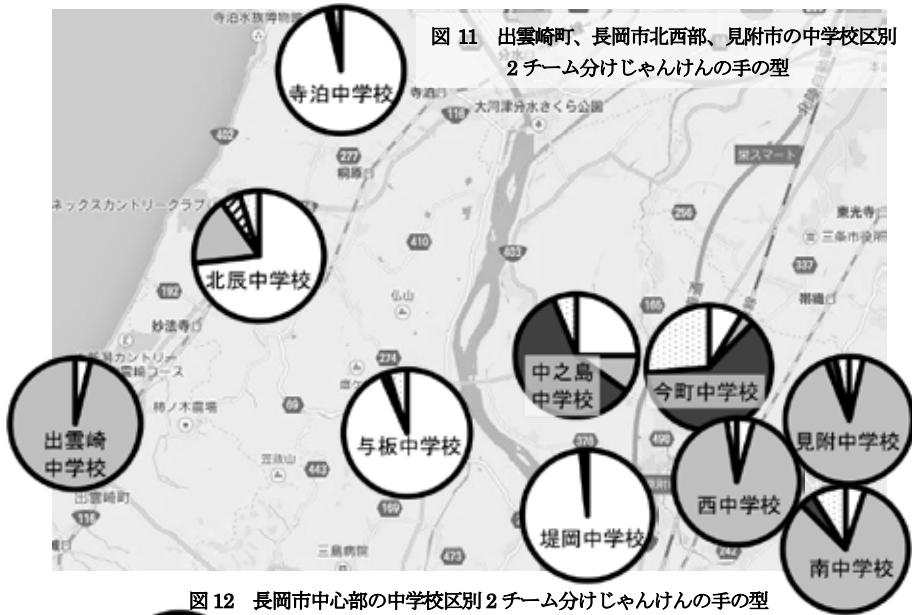


9. 出雲崎町、長岡市北西部、見附市の2チーム分けじゃんけんの手の型

図11の通り、「ぐー」と「ちょき」の2チーム分けが、三条市栄中学校を挟んで、三条市から見附市のJR信越本線の東側の中学校区の広い範囲で見られる。海沿いの出雲崎中学校も「ぐっちょで」というかけ声で、手の型は「ぐー」と「ちょき」がほとんどを占める。「手の甲」と「手のひら」による2チーム分けが多いのは、見附市今町中学校と長岡市中之島中学校で、「ぐー」と「ぱー」は、長岡市寺泊中学校、北辰中学校、与板中学校で多く使われている。ただし、北辰中学校は回答数の在籍生徒数に対する割合が高く、複数回答してくれた生徒が多いことがわかる。ほとんどの生徒が「ぐとっぱ」類を回答しているが、複数回答として「ぐとっちょ」や「ぱとっちょ」の記入があるため、グラフ上にそれが現れたが、基本的には「ぐー」と「ぱー」が使われているものと考えられる。

10. 長岡市中心部の2チーム分けじゃんけんの手の型

図12から、長岡市中心部に「ぐー」と「ぱー」を使う学校が集まっており、中心部から離れた山本中学校、関原中学校、旭岡中学校、越路中学校などで、「手の甲」と「手のひら」を使う割合が高くなっていることがわかる。山本中学校は、ほとんどの生徒が「ぐとっぱ」と「うらうらうらうらうらおもて」の2つを記入してくれたため、両者の割合が同じくらいになっている。また、関原中学校も同様である。旭岡中学校でも同様の複数回答もあるが、「ぐー」と「ぱー」だけと、「手の甲」と「手のひら」だけの回答も同数程度あった。三島中学校は「ぐー」と「ちょき」が3分の1程度含まれており、海に沿って北隣にある出雲崎中学校や南隣の柏崎市西山中学校の影響が伺える。



11. 刈羽村、柏崎市中心部の 2 チーム分けじゃんけんの手の型

図 13 の通り、柏崎市では、出雲崎中学校区に隣接する西山中学校と、図 14 の長岡市小国中学校に近い柏崎第 5 中学校以外では、「ぐー」と「ぱー」による 2 チーム分けが行われている。かけ声は中心部の第 1、第 3、東中学校で「ぐっぱーぐっぱーちょーなっし」、瑞穂中学校で「ぐっぱーぐっぱーわかれっこ」等が使われている。

図 13 刈羽村、柏崎市中心部の中学校区別 2 チーム分けじゃんけんの手の型



12. 小千谷市と長岡市、柏崎市の内陸部の 2 チーム分けじゃんけんの手の型

図 14 の通り、長岡市小国中学校で「いちかに」というかけ声の 2 チーム分けが見られる。実際、手の型についての記述はなかったので、学校に電話で確認したところ、指 1 本か 2 本かでチーム分けを行うとのことだった。また小国中学校では複数回答者も多く、「うらうらうらうらうらおもて」類のかけ声も見られる。

「手の甲」と「手のひら」の 2 チーム分けは、「うらおもて」類のかけ声が半数を占める柏崎第 5 中学校でも行われているが、いずれも中心部からやや離れたところで広く使われているという共通点があるようだ。小千谷南中学校では「ぐっちょっば」類のかけ声で、柏崎市高柳中学校では「ぐーぐーぐっばっば」類のかけ声で、「ぐー」と「ぱー」が使われている。

13. おわりに

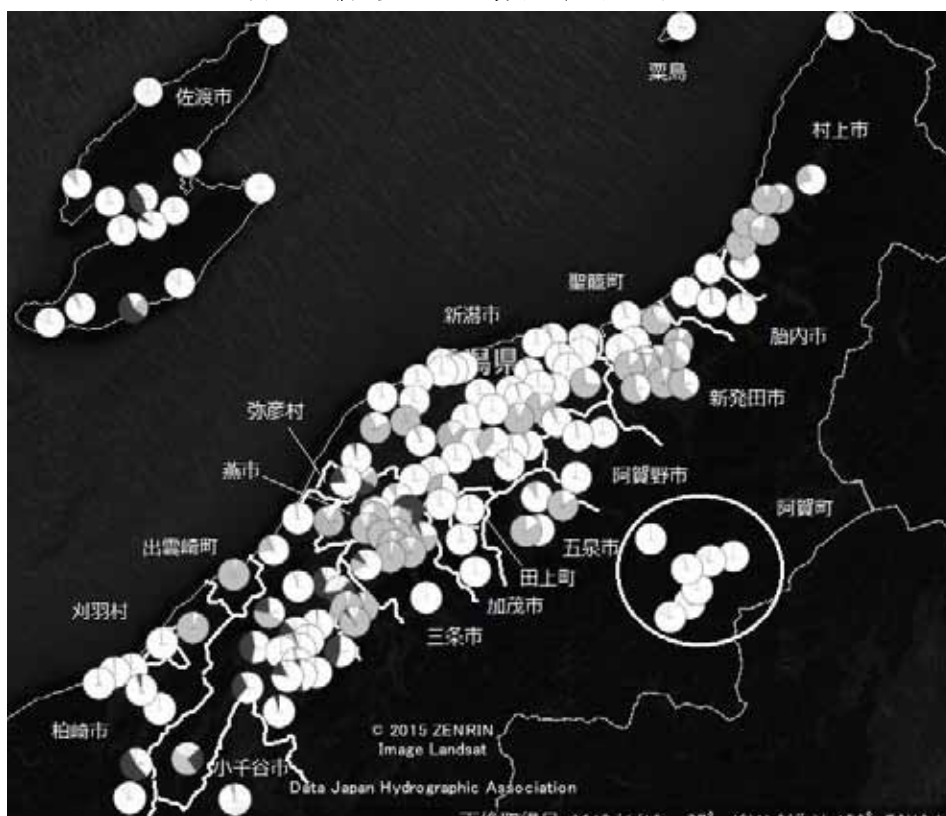
図 15 に全調査校 (注 4) の 2 チーム分けじゃんけんの際の手の型の分布を示した。Google 社の Picasa ウェブアルバムの「場所の編集」機能を利用して GoogleEarth で表示したものである (注 5)。紙幅の関係で、佐渡市について言及できなかったが、別稿に譲る。

最後に、本学の日本語学受講生及び、調査に協力してくださった小中学校の皆様に深甚の謝意を表したい。

図 14 小千谷市と柏崎市、長岡市の内陸部の中学校区別 2 チーム分けじゃんけんの手の型



図 15 全調査校の 2 チーム分けじゃんけんの手の型



<注 1>地図はすべて Google マップを利用した。

<注 2>以下の<付録>の通り、回答者が 2 人の粟島浦中学校から 300 人以上もいる新潟市小針中学校まで様々である。

<注 3>「ぐっばーまっかーだ」のかけ声が使われている調査校の先生から、当時その地域では「ぐっばーばっかーだ」というかけ声だったとの情報を得た。おそらく「ぐー」と「ぱー」だけだ、の意味だと思われるが、今では「まっかーだ」に変わっている。

<注4>全150の調査協力校のうち、加茂中学校、太田中学校の2校は調査用紙が学生から返却されず、確認がとれなかったため、ここでは掲載できなかった。

<注5>以下のリンクから各調査校のグラフと地図が見られるが、Picasa ウェブアルバムを使って Google Earth で言語地図を表示する方法については、佐々木(2014)を参照されたい。図15中の市町村境界線は、参考までに、およその位置を示すために筆者が一部手書きでなぞったものであり、実際の境界線と完全には一致しない。

<https://picasaweb.google.com/102913697562657670677/2014202#>

<付録>調査協力校一覧

原則として各中学校の1年生全員を対象に実施した。中学校で実施できなかった場合は、中学校区内の全小学校で、小学校6年生児童全員を対象に実施した。

所在自治体	調査協力中学校*	回答数**	在籍生徒数***	回答数 / 在籍生徒数	備考
村上市	岩船	24	33	0.73	
	村上第一	81	105	0.77	
	村上東	74	89	0.83	
	荒川	94	88	1.07	
	平林	35	36	0.97	
	神納	20	36	0.56	
	朝日	75	86	0.87	
岩船郡	山北	33	37	0.89	
	粟島浦	2	3	0.67	
胎内市	中条	124	147	0.84	
	乙	31	39	0.79	
	築地	37	41	0.90	
	黒川	33	36	0.92	
新発田市	佐々木	38	27	1.41	
	第一	136	156	0.87	
	猿橋	169	216	0.78	
	本丸	186	188	0.99	
	東	60	56	1.07	
	加治川	51	47	1.09	
	七葉	69	70	0.99	
	川東	38	32	1.19	
	豊浦	64	68	0.94	
紫雲寺	46	79	0.58		
聖籠町	亀代小(聖籠中学校区)	51	52	3校あわせた割合は 0.97	聖籠中学校2014年1年生 在籍数の152人に対する 割合
	蓮野小(聖籠中学校区)	43	45		
	山倉小(聖籠中学校区)	49	50		
阿賀野市	京ヶ瀬	53	53	1.00	
	水原	152	192	0.79	
	笹神	58	64	0.91	
	安田	86	88	0.98	
五泉市	五泉	129	158	0.82	
	山王	70	74	0.95	
	五泉川東	51	49	1.04	
	愛宕	54	55	0.98	
阿賀町	津川小(津川中学校区)	16	17	0.94	
	三郷小(津川中学校区)	9	10	0.90	

所在自治体	調査協力中学校*	回答数**	在籍生徒数***	回答数 / 在籍生徒数	備考
	鹿瀬小 (津川中学校区)	6	7	0.86	
	日出谷小 (津川中学校区)	3	3	1.00	
	上条小 (津川中学校区)	11	11	1.00	
	西川小 (津川中学校区)	11	12	0.92	5、6年生合計の在籍数
	三川中学校	20	20	1.00	
北区	光晴中	78	109	0.72	
	早通南小 (早通中学校区)	115	123	0.93	2014年度早通中学校1年生在籍数114人に対する割合)
	岡方中	36	36	1.00	
	南浜中	22	35	0.63	
	松浜中	101	121	0.83	
	木崎中	55	69	0.80	
	濁川	53	63	0.84	
江南区	大江山中	67	68	0.99	
	曾野木中	83	104	0.80	
	横越中	92	105	0.88	
	亀田	158	181	0.87	
	亀田西	97	132	0.73	
	両川	19	19	1.00	
秋葉区	新津第1	138	202	0.68	
	新津第2	166	177	0.94	
	新津第5	140	153	0.92	
	金津	60	61	0.98	
	小合	23	28	0.82	
東区	東石山	143	160	0.89	
	下山	108	126	0.86	
南区	白井	29	29	1.00	
	月潟	31	34	0.91	
	味方	39	36	1.08	
	白南	30	35	0.86	
	白根第一	120	125	0.96	
	白根北	75	124	0.60	
西区	小針	310	337	0.92	
	五十嵐	30	174	0.17	
	内野	160	192	0.83	
	坂井輪	156	222	0.70	
	中野小屋	25	22	1.14	
	赤塚	45	49	0.92	
	坂井輪小 (小新中学校区)	115	120	0.96	
西蒲区	巻西	98	120	0.82	
	岩室	73	76	0.96	
	潟東	43	115	0.37	
	中之口	52	55	0.95	
	西川	92	101	0.91	
弥彦村	弥彦	49	76	0.64	

所在自治体	調査協力中学校*	回答数**	在籍生徒数***	回答数 / 在籍生徒数	備考
燕市	燕	242	226	1.07	25年度2年生の在籍数に対する割合
	燕北	40	48	0.83	
	吉田	188	248	0.76	
	分水	120	129	0.93	
	大関小(小池中学校区)	21	67	1.09	
	小池小(小池中学校区)	48			2小学校の回答数合計の25年度小池中学校1年生在籍数に対する割合
三条市	三条第1	162	171	0.95	平成26年度大島中学校1年生在籍数に対する割合
	三条第3	95	115	0.83	
	三条第4	84	91	0.92	
	大島	25	25	1.00	
	大崎	81	99	0.82	
	栄	83	88	0.94	
	下田	76	79	0.96	
	本成寺	96	109	0.88	
	大島小(大島中学校区)	11	24	1.04	
須頃小(大島中学校区)	14				
加茂市	加茂		88	0.00	
	七谷	14	14	1.00	
	若宮	47	46	1.02	
	須田	21	21	1.00	
田上町	田上	106	124	0.85	
見附市	見附	84	95	0.88	
	今町	57	81	0.70	
	南(見附)	80	89	0.90	
	西(見附)	114	124	0.92	
出雲崎町	出雲崎	26	31	0.84	
長岡市	寺泊	80	82	0.98	
	北辰	41	34	1.21	
	中之島	112	109	1.03	
	三島	80	62	1.29	
	与板	61	67	0.91	
	山本	33	17	1.94	
	旭岡	96	92	1.04	
	栖吉	56	59	0.95	
	宮内	177	197	0.90	
	南(長岡)	117	129	0.91	
	東(長岡)	89	140	0.64	
	堤岡	122	125	0.98	
	北(長岡)	52	53	0.98	
	江陽	104	122	0.85	
	大島(長岡)	85	117	0.73	
	関原	92	93	0.99	
	越路	122	107	1.14	
	岡南	40	39	1.03	
小国	37	30	1.23		
太田		5	0.00		
刈羽村	刈羽	34	40	0.85	

所在自治体	調査協力中学校*	回答数**	在籍生徒数***	回答数 / 在籍生徒数	備考
柏崎市	第一 (柏崎)	55	62	0.89	
	第三 (柏崎)	89	97	0.92	
	北条	19	19	1.00	
	第五 (柏崎)	13	11	1.18	
	西山	30	35	0.86	
	高柳	9	10	0.90	
	瑞穂	65	83	0.78	
	東 (柏崎)	88	98	0.90	
小千谷市	小千谷市南	17	19	0.89	
佐渡市	両津	55	73	0.75	
	相川	38	44	0.86	
	高千	5	8	0.63	
	佐和田	50	63	0.79	
	金井	61	60	1.02	
	新穂	20	34	0.59	
	畑野	32	31	1.03	
	松ヶ崎	6	6	1	ただし中1～中3までの 全生徒
	真野	43	56	0.77	
	羽茂	21	29	0.72	
	赤泊	17	16	1.06	
	内海府小・中学校	6	6	1	中学1年生1が2人、小 学校6年生4人
	前浜小・中学校	12	13	0.92	中学1年生5人、小学校6 年生8人
小木小学校(小木中学校区)	24	27	0.89	学校教育情報サイト Gaccommによる2013年度 6年生の在籍数に対する割 合	
合計	150	10058	11633	0.86	

背景がグレーの学校は2013(平成25)年度の調査協力校(「小」のつかない学校は中学校。)

** 回答数は手の型がわかるものに限った。また複数回答してくれた人もあるため、在籍生徒数で割ると1.00を超える学校もある。

*** 在籍生徒数は、断りがない限り、平成25、26年度学校基本調査(学校別学年別生徒数)の数字に拠った。加茂中学校、太田中学校は筆者が直接アンケート用紙を確認できなかったため、ここでは掲載しない。

<参考文献>

佐々木香織(2012)「新潟県における2チーム分けじゃんけんの掛け声の分布」新潟国際情報大学 情報文化学部紀要 第15号 pp.14-24

http://www.nuis.ac.jp/ic/library/kiyou/15_sasakik.pdf

佐々木香織(2013)「燕市における2チーム分けじゃんけんの掛け声の分布」明海日本語 第18号増刊号 井上史雄先生古稀祝いオンライン論文集 pp.113-128

<http://www.urayasu.meikai.ac.jp/japanese/meikainihongo/18ex/default.htm>

佐々木香織(2014)「新潟県佐渡・下越地方の2チーム分けジャンケンのかけ声～Picasa ウェブアルバムとGoogle Earthで作る言語地図～」新潟国際情報大 情報文化学部紀要 第17号 pp.1-14

http://www.nuis.ac.jp/ic/library/kiyou/17_sasakikaori.pdf

英語要旨

The purpose of this essay is to show the distribution of the hand shape patterns in Janken to divide themselves into two groups. The questioner surveys were executed mainly at junior high schools in Kaetsu and Chuetsu Region in Niigata Prefecture in 2013 and 2014. The hand shape patterns in Janken is classified into 6 types; guu-paa, guu-choki, choki-paa, ura-omote, ichi-ni, and others, and the ratio of each pattern is shown in pie graph.

The pie graph of each school is plotted on the map. The maps show that Janken of guu-paa pattern is most commonly used in all the regions in Niigata and guu-choki patten is mainly used in Murakami, Shibata, Sanjo, Mitsuke and Izumozaki. The maps also show that ura-omote patter is not so common in the whole subject area apart from the central area of Niigata, and choki-paa and ichi-ni patterns are used in very few schools.